

講義室の光環境に對する在室者の主觀的評價

圓光大 ○ 郭敬淑, 漢陽大 申京珠

目的: 講義室の光環境に對する在室者(大學生)の反應を把握し、これを通じて望ましい講義室の光環境の條件を提示しようとした。

本研究は講義室の物理的な照度の測定と共にSD法による主觀的を在室者の光環境に對する反應の測定を謙たが本報告では主觀的な在室者の反應の測定に限定して報告する。

方法: 講義室での光環境の在室者への影響要素を黑板、冊床面、窓、講義室全體の4つの領域に分けてこれの評價に關する38項目の質問紙を作成し、SD法による7点Likert尺度での評價によった。鐵筋コンクリド建物の4層に位置した中央廊下形の南と北の講義室で42名の大學生を被驗者に6月と11月に各各2回ずつ光環境に對する質問紙に評價をさせた。その結果は南側と北側に區分し、また窓側と内側に分けてSPSS programを利用してprofile分析とT檢證を行なった。

結果: ① 講義室光環境の評價は夏と冬が共に南と北の講義室において兩方とも肯定的であつた。特に南側の講義室がもっと肯定的であつた。

②南・北講義室の兩グループ間の光環境に對する主觀的な差は夏より冬の方がもっと大きがつた。また夏よりも冬の南側の講義室で被驗者がまぶしいといい、北側の講義室ではくらいといった。したかつて冬は南側の講義室にはブラインドを、北側の講義室には人工照明の併用が進められた。

③講義室の物理的な光の量は在室者の光環境に對する主觀的な反應に影響を及ぼすことが確認された。特に講義室の明度感、満足度、均齊度に影響することがわかつた。